

〔日本地誌提要十一〕沿革 古へ國府ヲ中島郡ニ置今ノ國府宮鎌府ノ初、大屋安資守護ノ事ヲ行フ、足利氏ノ時、土岐頼康、子康行、滿貞、相繼テ守護トナル、應永中、斯波義重之ニ代リ、子孫ニ傳へ、世京都ニ在テ將軍ノ管領トナリ、其臣織田氏ヲ以テ守護代トナス、五世義敏、同族義廉カト嫡ヲ爭ヒ、義敏越前ニ奔リ、文明ノ末、義廉京ヲ去リ、來リテ清洲城ニ居、曾孫義統ニ至テ、威柄下ニ移リ、天文ノ末、家臣織田信友ニ弑セラル、信友ノ同族信長、兵ヲ興シテ信友ヲ誅シ、義統ノ遺孤義銀カネヲ清洲ニ奉ジ、代テ州事ヲ管ス、義銀後ニ信長ヲ除カシ、ト是ニ於テ信長、勢日盛ニ、遂ニ美濃ヲ取り、岐阜ニ徙リ、足利義昭ヲ京師ニ納レ、京畿内外二十餘州ヲ併セ、足利氏ニ代テ兵權ヲ掌ル、天正十年、弑ニ遭フ、豊臣秀吉亂ヲ定メ、諸臣ト會議シ、其舊疆ヲ分チ、信長ノ子信雄カウ、伊勢ヨリ清洲ニ移リ、本州ヲ領ス、十八年、秀吉其封ヲ奪ヒ、之ヲ那須ニ謫シ、義子秀次ヲ封ズ、文祿四年、秀次罪有テ自殺ス、秀吉福島正則ヲ清洲ニ封ズ、慶長五年、徳川氏正則ヲ安藝ニ徙シ、第四子忠吉ヲ封ズ、嗣ナシ、其弟義直代テ封ヲ受ケ、清洲ニ饋ス、十五年、名古屋ニ城テ之ニ遷リ、子孫封ヲ襲グ、忠吉ノ藩ニ就ク、平岩親吉ニ犬山ヲ賜ヒ、之ガ相トス、嗣ナク封除レ、成瀬正成之ニ代テ、義直ニ相トシ、職ヲ世ス、正成瀬直ニ藩屏ニ列ス、既ニシテ皆縣トナシ、尋デ稻置縣、即犬山ヲ廢シテ、名古屋縣ニ併セ、改稱シテ愛智ト云、

〔尾張志〕この尾張國を經營ありし國靈神、及其繼々に國主と坐しはいかなる神とも、傳記せる書の、今遺らねば知るべき由なけれど、もしくは尾張氏の遠祖等などにて、もあらむか、尾張氏は、天火明命の子孫にて、はじめは大和國葛城に住居たる地、高尾張といひしよし也、その同族の別れて、この尾張に下り來て住るが、世々經たる後に、尾張といふ姓を賜へり、されば尾張といふも、高尾張といふも、本はひとつにて別ならざりし也、其故縁は、三代實錄九卷、貞觀六年八月八日、尾張國海部郡人治部少錄從六位上、甚目連公宗氏、甚目の二字、今本に其目と誤れり、古本によりて、改